

## 総合計画審議会作業部会 意見概要

### 1 開催日

令和5年1月25日（水）

### 2 出席者

審議会委員：西村廣一会長・佐藤英人副会長・宮沢幸一委員・柳澤由美子委員

市役所職員：商工観光課2名・企画課（事務局）3名

こもろ観光局職員2名

### 3 対象事業

日本版DMO「こもろ観光局」を核としてオール小諸で取り組む観光地域づくり

プロジェクト～小諸ブランド「詩情あふれる高原の城下町」の創生～

### 4 意見概要

商工観光課からの説明

- ・財源がないことから今まで挑戦できなかった取り組みについて、地方創生推進交付金を活用して挑戦することができた。
- ・交付金の期間において、様々なソフト事業を実施した。施設については、糸屋、動物園の整備が主である。
- ・令和3年の秋、戌亥とこ（Vチューバー）の起用により、懐古園への若者の訪問が増加した。動物園リニューアルの効果により、令和4年の春は来客が増加した。令和4年春の観光客は、コロナ前と比べても増加した。他市と比べても小諸市は良い結果となった。
- ・今まで市から観光局へ委託料という形式を取っていたが、令和4年度から負担金に変更した。

委員

令和元年と比べて観光客が増えて良い。令和4年度の紅葉まつりはどうだったか。

商工観光課

令和4年度の紅葉まつりも順調であった。年間通しての観光客は限りなくコロナ前に近づいた。令和4年度は、市の一般会計から懐古園特別会計へ4100万円の支出を考えていたが、500万円程度で済む見込みである。これはまちタネ広場の効果もあると考えている。懐古園と広場で観光客の行き来があり、相乗効果が起きている。

#### 委員

まちタネ広場の効果もあってか、土日の家族連れが多く、お客が増えている。良い傾向である。

#### 商工観光課

広場は汎用性が高く、使いやすいことが良いと考えている。まちタネ広場の認知が益々広がっていくことに期待している。

#### 委員

令和3年度の段階では、若者の来客の継続性はどうかと懸念していたが、1年限りでなく、動物園リニューアル、まちタネ広場もあり、継続していてとても良いと思う。事業運営者がコロナを境に世代交代をしたようにも感じる。宣伝も新しいものが多く、今後も親子連れが楽しめるものを継続していただきたい。

#### 商工観光課

以前、観光ガイド協会と、小諸の歴史・文化、島崎藤村をどう活用するか検討した。事前に歴史・文化を理解してもらうことも必要だが、まず小諸に来てもらって、歴史・文化を理解してもらう流れも有効である。ガイドの方としては、勉強してから来てもらいたいという意見もあるが、商工観光課としては、まず来てもらうことを優先した。Vチューバーを起用したのもその一環である。本陣主屋に藤屋御本陣が入ることになったが、歴史ある建物であり、まずは藤屋御本陣を目当てに来ていただいて、それから小諸の歴史・文化を知ってもらう流れで来客を狙いたい。

#### 委員

旅行や観光は、事前に勉強することは重要であり、勉強せずに行ってもあまり知識が身に付かないということは多々あるが、まずは来ていただけてもらうことも確かに重要であると思う。次の段階としては、一度来た人を逃がさないように取り組んでいただきたい。

#### 観光局

直近1、2年は、全国メディアにプレスリリースを行い、かなり効果があった。テレビの露出が多く、芸能人の取材や若者のSNSでも良い宣伝につながった。これからも新しい手法を意識して進めたい。

## 委員

コロナの影響は大きく、観光業は大打撃を受けており、この期間の振り返りは難しいものがある。小諸は観光資源が趣ある状態で残っている点が良いと思う一方で、ストーリー性に欠けるようにも思う。もっと街を回遊するストーリーがあったら良いとも考える。藤屋御本陣の誘致は、新たなコンテンツが増えて良いことである。糸屋は、一部のユーザーのニーズを拾っているとは思いますが、糸屋の知名度が低いのが課題のように感じる。糸屋を使ってもう少し小諸をPRできたら良いのではないか。糸屋の運営は観光局の理事の献身的な貢献で成り立っている部分もあり、観光資源として、ビジネスとして、運営の持続性について再考の余地があると考えます。

## 観光局

糸屋、昨年の全国旅行支援が始まって以降、宿泊数は伸びている。だが、冬場に入って宿泊客は減っている。今後、新たに職員を雇い、運営の安定を目指している。北国街道も注目を浴びており、拠点となる施設を目指していきたい。本陣主屋で藤屋御本陣がオープンするため、糸屋の夕食がないという問題の改善につなげたい。

## 観光局

糸屋は、経営的な見地では、金・土・日のみの営業でビジネスとしては難しいと考えている。歴史的価値を生かし、拠点として活用していきたい。糸屋は自主事業の一環であり、収支がマイナスであっても、他の事業と合わせて、トータルでプラスを目指したい。外に発信する時に、「こういう場所もある」という宣伝に使っていく。我々の感覚だと年配の方がターゲットなのかと思っていたが、若年層はゲームで藤村を知った人もいる。有効な手段で色々な層を引き込みたい。小諸の血筋なのか、上から目線の人が多いように思っており、客に対する対応を改善していきたい。

## 委員

地方創生交付金事業はソフト事業を数多く実施したかと思うが、観光局が運営しなくても、主体を任せて観光客が楽しめる自立したコンテンツとして続けていくのはどうか。

現在、インバウンドが復活してきている。温泉旅館などについて、それぞれで再生を行うのではなく、面的再生を行政主導で進めていただきたい。

#### 商工観光課

円安効果もあり、インバウンドの需要は戻ると考えている。市内の事業者は、それぞれ立ち直ってきている最中であり、もう少ししたら統一してインバウンドを狙いたい。アジアの誘客は狙っていきたいが、去年から進めているフランスの誘客、ヨーロッパの誘客を引き続き進めたい。

#### 委員

外国人は、自分達で調べて旅行をしており、小諸の観光をうまく発信すれば、外国人は自発的に観光に来てくれると思う。

#### 観光局

小諸は、外国人に団体で来られても受け入れが難しいのが現状であり、個人に届く情報発信を念頭に考えている。5年間のソフト事業について、実施したが埋もれてしまっているものを活用していきたい。交付金で外国人向けのパンフレットも作ったので、あわせて活用していく。

#### 委員

小諸のワインが金賞を数多く取ったこともあり、ワインは物凄く注目を浴びている。ツアーだけでなく、色々なものをセットで売り出してもらいたい。

#### 観光局

マンズワインは、イベントをやって色々な人を引き込むバスツアーではなく、コアな層に切り替えて、ワイン好きな人を引き込みたいとのことである。ワイナリーは増えてきているが、まだまだ生産キャパが少なく、売り出す物が不足しているという課題もある。

#### 商工観光課

来年、マンズワイン 50 周年の記念事業を実施予定である。金賞を取った余韻を地域の活性化につなげたい。今年新たに、ワイナリーやウイスキー工場が開設されるため、うまく観光振興につなげたい。

#### 委員

観光局と行政は車の両輪だと思うが、両者でこれからどのように観光にあたっていくのか伺いたい。

#### 商工観光課

観光局が設立されてから今まで、観光のかじ取り役は観光局へ全権委任し、市は横から口を出すべきではないという考えになってしまっていたように思う。これからは考え方を換え、市と観光局で目線合わせをしながら進めていきたい。インバウンド、国内需要どちらも狙うため、観光事業者と目線を同じ方向性にすべく、観光局に引っ張ってもらいつつ、市が支えながら一緒に事業を進めていきたいと考えている。

#### 観光局

目標をしっかり数値化すべきだと考えている。自主事業を進め、行政からの補助を減らして、その後、事業拡大に移っていきたい。自主事業の稼ぎが増えたら市からの負担金を減らすのではなく、その分を新たな事業につなげたい。土産品、旅行商品についても、小諸の企業や小諸のお宝を活用していくようにしたい。

#### 委員

観光局の組織体制についてはどうか。

#### 観光局

現在、プロパーの正規職員が1名しかいない点は課題である。市からの派遣が2名から1名になった影響もある。事業をこなすので精一杯になっているが、徐々に改善していきたい。

#### 委員

これから様々な事業を実施しようと考えているかと思うが、まず組織体制を早急に固めていただきたい。